

第56回全国保育士会研究大会

～「特別分科会」発表募集要項～

- 全国保育士会では、保育所や幼保連携型認定こども園、地域子育て支援センターなどの第一線で働く保育士・保育教諭等が一堂に会し、実践研究の発表や、保育をめぐる課題等を研究協議することを目的に、全国保育士会研究大会を毎年開催しています。
- 大会2日目の「実践研究分科会」では、会員自らが主体的に発表をする『特別分科会』を設けています。
- 『特別分科会』は、自らの実践に対し全国の仲間から意見をもらい、意見交換をおこなうことで保育の質の向上をはかる場として位置づけています。全国研究大会の場で、全国の仲間と実践の共有をおこない、ともに保育の質を高めていきましょう。
- 日々取り組まれている実践、研究的な実践など、幅広い実践の発表をお待ちしています。ふるってご応募ください。

1. 発表日：令和5年10月20日（金）（第56回全国保育士会研究大会2日目）

2. 会場：アクトシティ浜松、オークラアクトシティホテル浜松等

3. 発表内容：**全国保育士会会員が所属する保育所・認定こども園等ならびに地域における保育・子育て支援の実践に関わるテーマ**

4. 発表対象：全国保育士会会員

5. 発表時間：35分程度

[内訳：発表20分、司会者によるまとめ等5～10分、機材セッティング5分]

※発表時間は、目安です。発表数により今後変更する可能性があります。



6. お申込方法：

- (1) 裏面「発表申込書」に必要事項をご記入のうえ、各都道府県・指定都市保育士会宛に、令和5年6月16日(金)までに、メールまたは郵送等で送付してください。
※本募集要項は、下記本会ホームページにも掲載しております。
- (2) 発表の可否は、「大会運営委員会」における審査のうえ、令和5年7月頃に「発表申込書」記載の連絡先に連絡いたします。また、決定後には、発表決定者の法人・施設名（施設の存する都道府県・指定都市名含む）、氏名、テーマを全国保育士会ホームページに掲載いたします。
- (3) 大会当日用の資料は、発表決定後、別途ご案内する内容（A4サイズ、10枚以内、word等のソフトにてご作成いただいたデータ[予定]）に基づいてご用意いただきます。

7. その他：

- (1) 発表者は上限2名とします。なお発表者とは、**日々の保育のなかで実践や研究に取り組んだ者で、全国保育士会研究大会当日の実践研究発表の際に、発表(発言)を行う者(パソコン等の機械操作の補助のみの登壇では発表者と認めない)**とします。
- (2) 特別分科会で発表される方の大会参加費・旅費は、各自のご負担となりますのであらかじめご了承ください。2日目（発表当日）の昼食代は、本会にて負担します。
- (3) 本特別分科会での発表は、本会の事業である「学会発表助成」に申請する際の選択要件の一つです。学会発表助成に申請いただく場合は、「その他の学会での発表」と同じテーマでお申込ください。（※令和5年度「学会発表助成」の詳細は、募集要項をご覧ください。募集要項は、下記本会ホームページに掲載しております。）
- (4) 発表者は「保育活動専門員」認定制度の研修ポイント（50ポイント）が取得できます。
- (5) 特別分科会は、発表と参加者による実践の共有が中心となるため、助言者はおいていません。
- (6) 全国保育協議会が実施する全国保育研究大会のフリー発表分科会と、同一の発表者が、同一のテーマで応募することはできません。

【発表申込書提出先】

各都道府県・指定都市保育士会
（全国保育士会ホームページをご参照ください）

【本件に関する問合せ先】

全国保育士会事務局（^{むぎた} 麥田、安藤）
TEL. 03-3581-6503 / FAX. 03-3581-6509
E-mail: hoikushikai@shakyo.or.jp
ホームページ <https://www.z-hoikushikai.com/>



過去の発表テーマ：

	発表者役職名	テーマ
第55回大会 (奈良県)	園長	「幼児教育と小学校教育をつなぐ接続期カリキュラムに関する研究－保小交流活動から相互理解を深める－」
	看護師	「医療的ケア児支援と就学に向けてのアクション」
	指導保育教諭	「子ども同士が育ち合う保育－実践事例からの考察－」
	管理栄養士	「食物アレルギーとクッキング活動の取組み」
第54回大会 (青森県)	園長	「幼保連携型認定こども園におけるカリキュラム・マネジメントの研究」
	所長	「保育の喜びを共有するために～連絡帳を手がかりとした保育の視点の拡がり～」
	保育士	「『保育士中心の保育』からの脱皮の瞬間～子どもの姿に仮設を立てたら、職員と子どもと保護者が変わった～」
	保育士	「SDGs(Sustainable Development Goals)の取組み～子ども・職員・地域とのつながりを求めて～」
第53回大会 (島根県)	副主任保育士	「たくましく生きる力を育む～すもう遊びから見えた、主体性のあり方～」
	園長	「対話的コミュニケーションの育み～フィンランドメソッドを中心に～」
	主任保育士	「魅力ある地域の特色を生かした保育」
	保育士	「高齢者施設が託児室～共に生きることの大切さ～」
	保育士	「わらべうた遊びを通して、心豊かな子どもを育む」
	保育士	「『子ども主体保育』における乳児期の生活リズムの形成」

